

戦術の定義と実践能力の研究

日下部 直樹

「戦術」という用語は優れた成果を出すための理論や術策を指す言葉として様々な領域で使われている。また、ある領域で体系化された戦術は、他の領域の活動にも有用な要素を含むとして、異なる領域の戦術を解釈する試みが数多く行われている。しかし、実際の戦術を施行する際は、体系化された戦術をそのまま術策として用いることはできず、施行者が経験によって培った能力や生まれ持った知能を用いて状況を分析し、最適な選択を模索する必要がある。こういった分析や選択に使われる施行者の能力をこの研究では「実践能力」と呼称する。体系化された戦術を他の領域へ転用する試みが活発である一方、戦術の施行のもう 1 つの側面である実践能力が複数の領域での戦術の施行において、相関性をもって作用するかを調査する研究はほとんど行われていない。

こうした状況のなか、本研究では戦術の実践能力が複数の、知識と経験を持たない領域での戦術の施行において、どの程度相関性をもって作用するかを明らかにすることを主目的とする。また、領域によって異なる内実と定義を持つ、使用される領域に依存した言葉である「戦術」について、その定義を統一化する試みは、今後の戦術を扱った研究を活発化させることに有効であると考え、領域を問わずに使用できる包括的な言葉としての「戦術」の定義を検討し、提案することを副目的とした。

本研究では戦術が用語として浸透した領域として「戦争」「スポーツ」「ビジネス」の 3 つを対象とした。各領域における戦術の内実や定義の認識などを調査したところ、各領域における戦術の定義、分類には、「戦略」を上位、「戦術」を下位とする構造をもっており、上位の術策によって生じた小目標の達成を目標としているという共通点が存在することが分かった。よって、本研究では戦術の用法として「戦略あるいは上位の戦術の施行によって生じた目標を達成する為に施行される術策、及びその理論」とすることを提案した。

3つの領域における戦術の調査を元に、各領域で戦術の施行能力がどの程度有効に作用しているかを計測するテストを作成し、3つの領域全てにおいて経験・知識のない人物 20 名に回答してもらった。相関分析を用いてその結果を分析し、異なる 2 つの領域間のテスト成績の相関を調べたところ、全ての領域間の成績に相関があり、特に戦争とスポーツ(カバディ)の領域間の成績には非常に強い相関があった。戦争とスポーツ(カバディ)の問題は施行者の指揮する集団(戦力)をどのように配置・運用するかを問うものが多いが、一方でビジネスの問題は集団の運用を問うものよりも、術策を練る上で何を意識すべきかを問うものが多かったことが相関の強弱に影響していると考えられる。本研究では複数の分野の戦術の施行において、戦術の実践能力は相関をもって有効に作用することを示唆する結果となった。

今後は、今回検証できなかった政治などの領域における戦術の施行や、戦術の上位に位置する戦略の施行においても相関があるかといったことを明らかにしたい。

(指導教員 真榮城哲也)